



変化をチャンスに 共に次のステージへ

産業用ロボットのソリューションSier ガイドー

対談

ガイドー
山田 貞夫 社長

井水 治博 社長

日刊工業新聞社

自動化ニーズ取り込む

地政学リスクの高まりやグローバルなサプライチェーン（供給網）の見直しなどで製造業に国内回帰の機運が高まっている。一方、日本企業が抱える課題は人手不足、生産性向上、脱炭素化対応など複雑化している。「産業界のコンダクター（指揮者）」を標榜するメカトロニクス専門商社のガイドーは、年間約3000台の産業用ロボットを販売する世界有数のSier（システムインテグレーター）としても知られる。全国約40カ所に構える営業拠点の移転・拡張だけでなく、新たに物流拠点開設に動きだすなど自社のソリューション力に磨きをかける。また、半導体産業の投資で注目が集まる九州で新たな自動化ニーズの掘り起こしにも注力する。同社の山田貞夫社長は「物流、働き方の改革を進めて会社を次のステージへ引き上げる」と意気込む。日刊工業新聞社社長の井水治博が戦略拠点の福岡営業所（福岡市博多区）を訪れ、山田社長と今後の展望などについて語り合った。

高付加価値化を追求

井水 2016年に開設した「ガイドー名古屋ロボット館」（名古屋市中村区）を皮切りに自社負担で実機体験施設を開設してきました。名古屋、愛知県三河、東京、福岡に計100台の産業用ロボットを設置しています。名古屋と東京のそれぞれにファナックやデンソーウェーブなどの産業用ロボットを40台設置していますが、この福岡営業所でも設置台数を増やしていますね。九州では半導体受託製造（ファウンドリ）

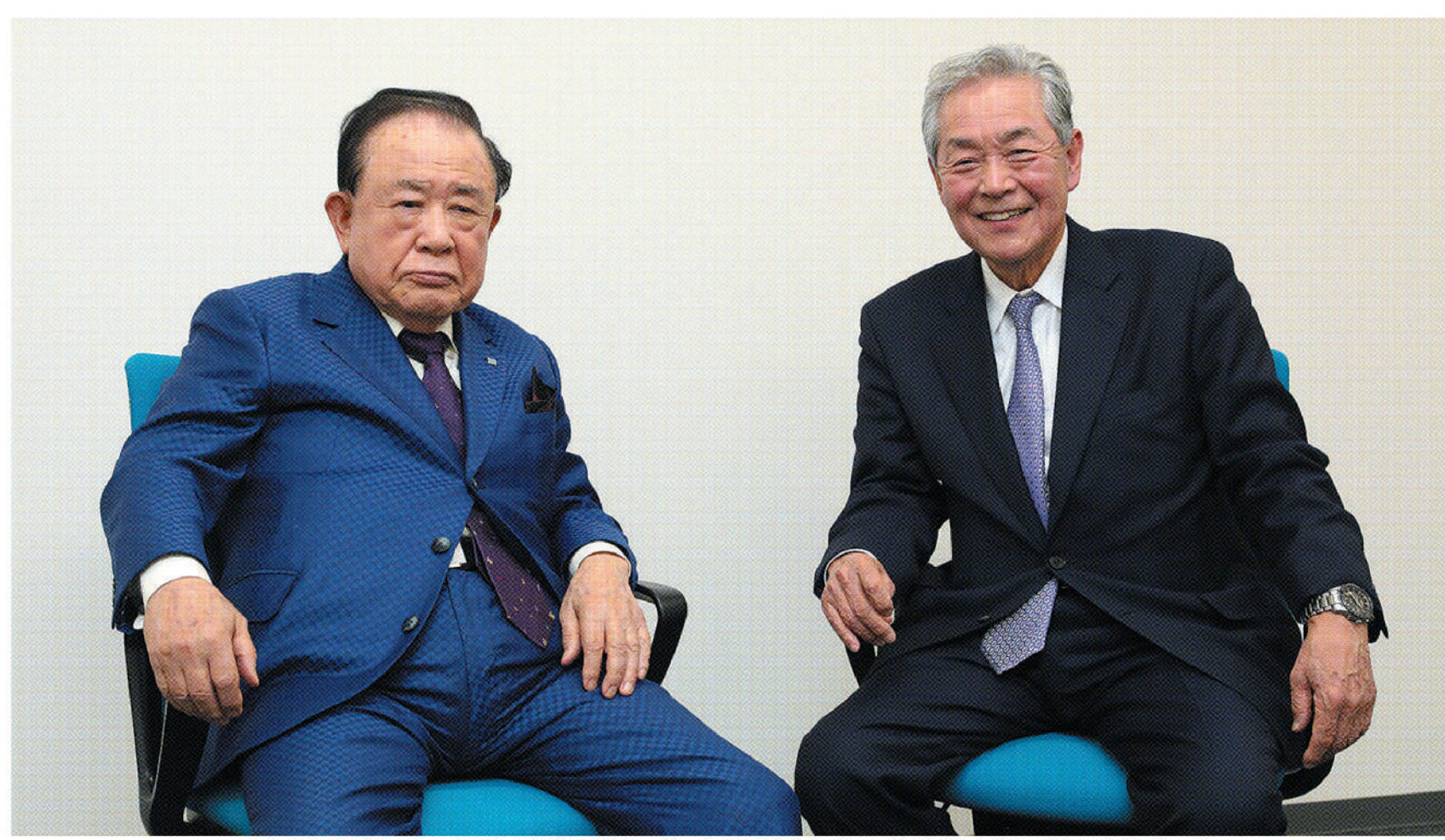
山田 世界最大手の台湾積体電路製造（TSMC）が2024年2月、熊本県菊陽町に工場を開所しました。同社は、第2工場建設も決まっており、二つの工場を合わせた設備投資額は200億（約3兆円）と巨額です。経済産業省が策定した半導体・デジタル産業戦略では産業用先端半導体のサプライチェーンの中核にも位置付けられています。また、九州には半導体だけでなく自動車、航空宇宙産業もありますし、重工業も存



井水 製造業に国内回帰の動きがある一方で急速に進む少子高齢化を背景にした「2025年問題」という社会構造の変化への対応も求められています。現在のシニアはアクティブですが、いよいよ熟練技能者も会社を去っており、幅広い業界で人手不足問題が起きています。既設工場においても産業用ロボットを活用した自動化に活路を見いだ

す動きが加速していきます。山田 メカトロ機器の販売を通じて多くの企業と取引をさせてもらっています。各社の共通課題は人手不足と人件費の高騰です。顧客が産業用ロボットの導入を検討するきっかけは人手不足ですが、ロボットを活用した自動化の真の狙いは品質向上とタクトタイム、リードタイムの削減による高付加価値化です。人手を介する生産プロセスが

井水 資が進んでいなかった食品業界でも導入事例が増えています。最近では引き合いの半分が協働ロボットの案件です。いきなり全自動化を目指すのではなく、できる所から自動化比率を高めて



山田社長（左）と井水社長（右）が産業用ロボットの可能性とモノづくりの未来について語り合った

先進機器をグローバル調達

井水 人工知能（AI）の発達もロボットの活用拡

山田 人ロボットが一緒に働く生産ラインではソフトウェア領域の重要性がより高まります。AIを導入した生産管理システムや、カメラで収集した製品画像をAIが解析するシステムも当たり前のようになってきました。当社では、最新技術を提案できるような国内だけでなく欧米やアジアからも先進的な機器を調達しています。ロボットの目の役割を果たす3次元（3D）カメラなどの能力向上には目を見張るものがあります。各ロボット館は展示機を更新しながら、常

配送拠点を整備し広域対応

井水 「物流の2024年問題」として顕在化した物流への対応は卸売業である商社にとっても生命線です。貴社は空圧・油圧機器、直動システム、制御・計測機器まで幅広くFA機器を取り扱い、現在約3000社の仕入れ先があります。需要の多い名古屋、東京、大阪の主要拠点に在庫センターを設置し、豊富な商品をストックしています。商品供給面の改革として、2025年春、名古屋市中村区に新たな物流センターを稼働させる予定です。

山田 トラック運転手の不足や稼働時間が減る課題に対処して作業を行うことは困難でした。AIの活用によりロボットが状況に応じ自ら判断し、作業を先結できるようになりました。ロボットが自律性を高めたことで生産計画が頻繁に変わるよ



3Dカメラなどの先進機器も数多く取り揃える



福岡営業所では産業ロボットの見学やテスト利用に対応する

社員との「つながり」重視

井水 時代の変化とともに商社に求められる役割も変わってきています。近年は供給業務だけでなく、ユーザーの要望を満たしながら生産現場の課題解消につながるコンサルティング機能が求められます。提案力を磨くには人材の定着、育成が欠かせません。社員のエンゲージメント（愛着）をどのように高めていけるかが最も重要な経営課題といえます。

山田 当社の事業は、やはり人が中心です。社員の質がサービスの質となります。働きやすい環境づくりの一環で2024年秋、新ビル「DAIDOCADEAU（カドール）building」（名古屋市中村区）に本社機能を移転しました。同ビルは2023年に取得したもので、1階のエントランスが吹き抜けの開放的な空間です。若手の意見を取り入れて全館リノベーションし、食堂はランチタイムが楽しめるようなカフェ風のデザインとしました。気軽に外部の方ともミーティングもできるため、社員からも好評です。金沢市の営業所も加賀五彩を取り入れた内外装の建物にリニューアルし、東北営業所も社員が通いやすい交通アクセスが良好な場所に移転しました。社員同士のコミュニケーションがとりやすいオフィスに変えていきます。

井水 山田社長は人との縁を大切に、長年経営を



福岡市博多区にある福岡営業所

メカトロニクス技術商社

ガイドー株式会社

本社 名古屋市中村区名駅南4-12-19
TEL=052-533-6705
T E 金=7億7764万円
本 上 高=1200億円(2024年11月期見込み)

仕入 先=約3000社
取引 先=約5000社
従業員=1200人
設立=1952年(昭27)12月

ガイドーロボット館、オートマチックファクトリーの見学はHPより申し込みできます。 <https://www.daido-net.co.jp>